



# GOOD NEWS と きの こ え



「山室軍平蒼私の青年時代」より）キリストの救いの感激は、仕事の合間に外に出て行っては路傍伝道する力となった。自分が受けた救いの恵みを語らずにい

救世軍の創立者ウイリアム・ブースも貧しい家庭に育ち、「平民」の苦しみを知る人物であった。メソジスト教会の伝道者として活動する中、「福音」を知らされるべき人々は、英国の華々しい産業革命の裏に存在した「最暗黒」に置かれた労働者たち、また、極度

写真は、山室の故郷 新見市にある山室軍平の胸像

## War Cry

### 9月号

福音版  
2019  
September  
No.2788

二〇一九年 九月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

http://www.salvationarmy.or.jp

# 「神と平民のために」生き抜いた山室

朝野 洋

真に人を突き動かす力は何か。大伝道者パウロは、「福音のためなら、わたしはどんなことでもします」(コリントの信徒への手紙一9章23節)と後進に書き送っている。「もつとも、わたしが福音を告げ知らせても、それはわたしの誇りにはなりません。そうせざるはいられないことだからです。福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸

なのです。」(同16節)「福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸」だとパウロに断言させる福音は、時を経、日本で初めて救世軍士官(伝道者)となった山室軍平の力となった。明治五(一八七二)年に生を受けた山室は、明治と共に成長したと言っても過言ではない。日本が大きく変革する中で、貧しい農家に生まれた山室が強く望んだことの第一は、教育を受け

ることであった。養子先でその保証を失った彼は、十四歳で家出をする。東京に着き、様々な人の助けを得ながら仕事をし、貪欲に学ぶ中「福音」キリストの福音に出合った。「……わたくしは、天の父のいますこと、自分の罪のこと、またキリストの執り成しのこと等に関し、ほぼキリスト教が教えるところを理解したように思った。そこでわたくしは正直に自

分の気のついたかぎりの罪を悔い改め、キリストとその十字架とを信じて罪のゆるしを求め、その救いを受けて、ともかくも及ぶかぎりまじめに、信仰の道を歩むこととなった。……(山室軍平蒼私の青年時代)より)

神と平民のために、と救世軍に身を投じ、救世軍士官となった山室は、ブースの思想に共鳴し、どんな境遇にある人をも「変革」させる福音の力を日本中にもたらした。刑務所で刑を終えた人々を助けたことから、「山室は前科者の親玉だ」と言われたことさえあった。身売りされた女性の救済と自立支援等、政府・経済界の要人にも臆することなく支援を求め、同志を得て働きを拡大させたのである。若くして山室の魂に刻まれた、生涯彼を動かした福音の力は、燃える火のように人々の心に点じられ、彼らを動かした。その炎は、今も点じられる魂を求めている。そして今、あなたを突き動かす力となり得るのである。(救世軍士官(伝道者))

## WINDOWS on the ARMY WORLD 世界をみつめて

### 〈英国〉勇気ある95歳への創立者章

7月7日(日)、救世軍士官(伝道者)が任命される記念すべき集会において95歳の救世軍士官ハリー・リード中将が、救世軍万国総督ブライアン・ペドル大将より、「創立者章」を授与されました。

英国出身のリード中将は、第二次世界大戦中の1944年にノルマンディー上陸作戦に参加し、フランスにパラシュートで降下した経験をもっていました。終戦後救世軍士官となり、英国やオーストラリア、カナダで奉仕し、英国の司令官も務めました。すでに引退して久しいですが、昨年に続いて今年(ノルマンディー上陸作戦75周年記念)も、パラシュートによる降下をフランスでおこないました。この降下は、救世軍の反人身取引のためのファンドレイジングの意味ももっていました。

大将は、「この度の賞にはソーシャルメディアからの強力な推薦があった」と語り、受章の挨拶でリード中将は、「私は、人生に心から満足しています」と感謝の意を表しました。

創立者章は、1917年に制定された救世軍の章で、救世軍において特筆すべき働きをした人々に授与されています。受章の様子(ハリー中将の紹介動画を含む)が、救世軍の万国本営(国際本部)のホームページ上からご覧いただけます(<https://www.salvationarmy.org/ihq/news/inr090719>)。



発行日 福音版・毎月一日発行  
定価 福音版・一部 四〇円  
広報版・一部 一〇〇円  
クリスマス特集号(十二月一日号) 一部 一〇〇円  
振替・〇〇一八〇五四〇〇  
〒101-0051 東京都千代田区  
印刷所 救世軍本営  
印刷人 代表者ケネス・メイナード  
編集人 寺澤 真由子

### 〈ナイジェリア〉紛争の影響下にある人々への食糧支援

ナイジェリア北東部の紛争は、3つの州に壊滅的な影響を及ぼし、何百万もの人々が深刻な影響を受けています。救世軍は、ナイジェリアの国家緊急事態管理局、バプテスト教会及び同国のクリスチャン評議会の支援を受けて、最低限の食料品、寝袋、毛布、衣料品、衛生と病気予防のために石鹸と洗剤を提供しています。残虐行為を経験した人々は、こうした食料品を喜び、その感謝の思いを歌や踊りで表しています。一人の女性はその品々を「命への希望です」という言葉で表現していました。



### 〈日本〉西日本豪雨から一年の岡山で

岡山・広島県を中心に大きな被害の出た西日本豪雨から一年。7月15日(月・祝)、真備町にある「まびくら」で、「夏まつり」がおこなわれました。救世軍は、手づくりのカレーライスを120食提供しました。他に、わたがし、たこ焼き、かき氷など、祭りらしいメニューに加え、ゴスペルシンガー神山みささんなどのライブもあり、約250人の参加者が楽しいひと時を過ごしました。

※超教派の組織「岡山キリスト災害支援室」、「YMCAせとうち」、日本基督教団東中国教区の連携で運営している西日本豪雨被害復興拠点



## 救世軍とは? What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界131の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師であったウイリアム・ブースによって始められ、家のない人々、仕事に就けない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や顧みられない子どもたち、災害に遭った人々などに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本での働きは、1895(明治28)年に始まり、伝道の拠点である小隊(教会にあたる)を開設。廃娼運動、失業者対策、病院や結核療養所の設立、児童や女性の保護、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて、様々な働きを興してきました。日本人で最初に救世軍士官(伝道者)となったのは、山室軍平です。キリスト教界だけでなく、社会福祉の分野における先駆者の一人にも数えられています。

救世軍では、毎年9月に実りの秋を感謝して神様に献げ物をする「感謝祭」を守っています。この時期には、信徒が自ら献金するとともに、知人、友人、地域の方々や企業などから救世軍の活動資金を募っています。

この紙面を読まれて興味をもたれた方は、ぜひ最寄りの救世軍をお訪ねください。また、救世軍本営のホームページでもインターネットを通じてご協力いただけます。



発行日及び定価  
福音版・毎月一日発行  
定価 福音版・一部 四〇円  
広報版・一部 一〇〇円  
クリスマス特集号(十二月一日号) 一部 一〇〇円  
振替・〇〇一八〇五四〇〇  
〒101-0051 東京都千代田区  
印刷所 救世軍本営  
印刷人 代表者ケネス・メイナード  
編集人 寺澤 真由子

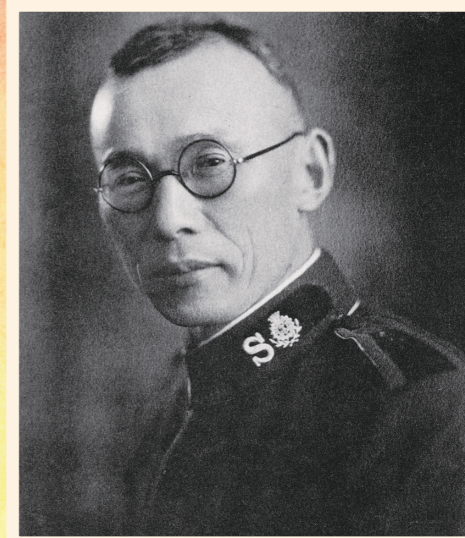
(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではお取り扱いしません。これらの問題ではお取り扱いが、右救世軍にご相談ください。

聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会

特別企画 山室軍平に見る救いの力

# 主の栄光を語り伝えよう

## 2019 Declare His Glory



9月22日は、日本において救世軍の働きが始められた124年目の記念日です。今回は、日本人で初めて、救世軍士官（伝道者）となった山室軍平の足跡を辿りました。

「インフルエンサー・社会に影響を与える人」山室軍平

山室軍平が、家出して来た東京で活版所（印刷所）の仕事を得たことは、山室のインフルエンサーとしての生涯の土台となりました。

山室の、文字を介しての影響力は救世軍においていかに高く発揮されたのか、救世軍の公報『ときのこと』の編集者、また寄稿者としての情報伝達力は、現代のSNS（ソーシャル・ネットワークキングダム・サービス）にも劣らないほど膨大かつスピーディーでした。『ときのこと』に用いた挿し絵は、時に山室が夜店で買ったもの。山室は、読者の目を引き、大衆に福音を伝え、信者には信仰や生き方に対する示唆を与え、同時に万国的な動向を網羅しつつ編集しました。日本の

社会に一石を投じるような内容もあり、実に読み応えのある紙面構成でした。その語り口は平易で、たとえば、次のような言葉が記されています。（引用文は一部現代仮名遣いにしてあります）

●編集者の挨拶  
○ふとしたことから、この「ときのこと」が手に入り、読んでみて、これは面白い、もつと読んでみたいと思う方は、次に載せてある最寄りの救世軍へ申し込むか、または郵便切手を封じ込んで、東京芝区南佐久間町の救世軍本営へ申し込んでください。  
○郵便切手を封じ込んで送るには、半年分は十八銭、一年分は三十六銭、それだけ払っておけば、半年なり一年なり、座って一部も欠かさずにこの「ときのこと」を読むことができます。  
○この「ときのこと」を読んで、まことの神様を信仰したいと思う方は、同じく最寄りの救世軍へお出でなされ。悔い改めてキリストを信仰し、かならず罪から救われて楽

しく清い世渡りをなされませ。

○この「ときのこと」を読んで、何か神信心の道に分からないところがあり、尋ねたいと思う方は、編集者のところへ手紙をお寄せください。できるだけは御返事をして、一緒にキリストの御恵みに与りたいと存じます。

山室は、実際に全国から寄せられた手紙に返事を書き、文通を通して人々を信仰に導きました。また、救世軍と山室の名前が全国に広く知られるきっかけが、人身取引によって強制労働状態にあった女性（娼妓）の自由廃業運動です。実際に遊郭に出向き、女性たちが自分の意志で仕事を辞めることができることを伝えました。『ときのこと』もそのことを伝えるツールでした。  
●天下の娼妓に告ぐ  
（前略）先ごろ内務省の方から新しい娼妓取り締まり規則が出ましたにつき、以来あなた方さえ廃業する心になれば、いつでもさつさと警察署に行つて、その名前を帳面から消してもらい、素人になれる規則になったのであります。そうして、もしまた誰でもその邪魔を

する者があれば、すぐに二十五円以下の罰金または二十五日以下の禁錮に処せられるという決まりになったような次第。もはや誰に遠慮もないことゆえ、速やかに廃業して素人におなりになさるが宜しい。さて、廃業した後で堅気な人間になることについては、救世軍にご相談になれば、あなたがたを引き取り、食物着え、未始終の世話までしてあげます。早うお出でなされ。

この語り掛けるような文体が、現代のユーチューバーにも通じるコミュニケーションの力を思わせます。今からちょうど百二十年前、山室が二十七歳で記した初の書『平民の福音』も、山室の声が聞こえるような文体で書かれています。日本人の日常の機微を掬い取りつつ、洋の東西を問わずに引用した歴史や文学、偉人の言葉などが矢継ぎ早に示され、まるで、読者ただ一人に、面と向かって語りかけるような印象です。また、山室の手にかかると、聖書の言葉の説明すら、まるで落語の人情物のように心に響く物語となって読者の心に届いたのでした。

数々の替え歌作者として「貧しきもの」に「福音を」

外国の宗教であると思われるキリスト教を、日本の庶民的な表現を用いて「翻訳」した山室。その才能は、作詞に生かされました。十分な教育を受ける間もなく労働者となっていた人々を知る山室は、当時だれもが知る曲に歌詞を当てて、替え歌をつくっては発表しました。替え歌によって人々にキリスト教とその信仰のあり方を示したのでした。次の歌は、山室のキリスト及び信仰者理解をよく表しています。

一、昔主イエスは草ぶかき ナザレの村に人となり いふせき賤が（卑しい）の意 伏屋にて 木を切り板をけずりつつ ひたいに汗しはたらきて われらに模範をのこしたもう  
二、イエスの救いは本棚や 机の上のものならず

全存在をもって神を証しする人生

〜神と平民のためにすべてを献げる〜

山室にとって、人生のハイライトの一つが、創立者ウイリアム・ブース大将来日の折に、大将の通訳を務めたことでした。明治四十

（一九〇七）年四月、桜満開の日本に着いた大将はまず横浜のクラブ・ホテル前にて挨拶しました（写真・白髪白髯の大將と通訳する山室）。



大將は、日本に善をなすために来たこと、自らは、自分の利益と安楽のために生きることをやめ、世の中の不幸な人々を救うために自分を献げたこと、悲しむ者の涙を拭い、罪に沈む者を救うことが、終生の願いであること、この世においてすべての人を幸せに、かの世においては天国に入るこゝとができるよう、尽くす者である、と告げました。老齢ながら力強いブースの言葉を通訳する山室の言葉は、息をつかせる暇もないほどの勢いで、火がほとばしるかと思われるほどであったと評されています。神から与えられた働きへ邁進する二人の姿は人々の心を動かしました。

東京市（当時）主催の歓迎会には、大隈重信、渋沢

栄一、尾崎行雄、島田三郎、大山巖、徳富猪一郎ら名士約二百人が一堂に会しました。その後各地を訪問し、集会を導いたブース大將の伝道旅行は、全国的に救世軍の社会的認知度と信頼度を高める機会となりました。以後も、山室の執筆による書籍の効果は目覚しく、伝道と社会事業両面の働きが拡充し、加えて医療事業も始まりました。

その著しい発展途にある救世軍を指導する立場にたった山室ですが、一つ一つの出会いに、愛を注ぐ姿勢は終生変わることがありませんでした。山室は常に約八百人の名前が記された手帳を持ち歩き、毎日朝夕の祈りの時間にそれらのページをめくりながら祈りの時をもっていました。どんな場合にもどんな人にも挨拶とお礼を欠かさず、その姿に感化を受け、信仰を志した人、ほんの一瞬の出会いで掛けられた山室の言葉を大切に、生涯信仰を貫いた人など、その影響は枚地上での別れを前にした

病床で語った彼の言葉が、次のように残されています。「もう一遍言い直す。若き友よ、罪を悔い改めよ、イエス・キリストを信ぜよ、祈り深い心をもって、神の導きを求めよ、根気よくそのみ旨に従って歩め。その通りやってくれたら何も思い残すところは無い。」人々、特に青年の救いと彼らが信仰の生涯を全うすることを願った山室。青年時代に出会ったキリストとその救いの力、神の愛の力を知る山室の思いは、この時、次世代を担う若者にあつたのでしよう。



後に女性初の救世軍大將となったエバンゼリン・ブース（創立者の娘で救世軍士官）の通訳をする山室（1929年同志社にて。山室の横で耳を傾けているのは新島八重女史）

軍国主義が台頭し始め、万国主義を標榜する救世軍の上にも暗雲の立ち込め始めた昭和十五（一九四〇）年三月十三日、六十八年の地上の生涯を終え、山室は天国へ凱旋しました。



### 救世軍のスポーツ伝道

9月、ラグビーワールドカップが日本で初めて開催されます。20の国の代表チームが、48回の試合をします。

いくつかの救世軍の小隊（教会にあたる）では、9月20日（金）の開幕試合を上映するパブリックビューイング&カフェチャーターを計画しています。

また、世界的なイベントの陰で懸念される人身取引について啓蒙するための「レッドカード」を作成し、繁華街で配布する予定です。（監督指導・NPO法人ライトハウス）



キトリ  
ご住所  
ご氏名  
私の近くの救世軍を紹介してください。  
キリスト教についてもつと知りたいです。  
『ときのこと』の購読を申し込みます。

この部分を封書か葉書に貼り、裏面の救世軍にお送りください。